

第5章 教育原理

《学習の勘所！》

- ①第4節の「学習指導要領」は、変遷も現行の内容もどちらも頻出。必ずおさえよう。
- ②第5節の同和教育・人権教育、第6節の特別支援教育は①に次いで出題されやすい。
- ③第1～3節は、教育史や教育心理とも重なる範囲もあるので他科目出題の可能性もある。
- ④第7節の問題行動の現況は、最新データをおさえよう。特に傾向の変化が起こったところは要注意。
- ⑤第8節は自治体によってばらつきあり。過去に出ている自治体は要注意。

第1節 教育の必要性

1. 人間の特殊性

他の動物と人間を分かつ点に着目したとき、以下の言葉が生まれる。

- ・「ホモ＝サピエンス」→理性を持った動物としての人間を意味する
- ・「ホモ＝ファーベル」→道具を作る動物としての人間を意味する
- ・「ホモ＝ルーデンス」→遊びという行為を行う動物としての人間を意味する

また、教育史でも登場する古代ギリシアの哲学者であるアリストテレスは、人間は家族を基本単位としながらも、他者と共同して社会をつくり、集団として行動する習性を備えているとし、これを「ゾーン・ポリティコン（ポリス的動物）」と表現した。

さらに、數学者として有名なパスカルは、「人間はひとくきの葦にすぎない。自然のなかで最も弱いものである。だが、それは考える葦である」とい、人間の思考に対する尊厳を与えている。

2. 教育の必要性

1で述べた人間の特殊性は、遺伝的特質の具現化だけで獲得できるものではない。教育環境がなければそのように育たない。狼に育てられたというアヴェロンの野生児が、その後に人間らしい発達を遂げなかつたことはそのことを示す例として度々言及される。

また、古今東西の思想家が教育の必要性に関する言葉を残している。図表5-1はこれをまとめたものである。

図表5-1 教育の必要性への言及

プラトン（前427～前347）	「人間は正しい教育を受け、幸運な資質に恵まれればこのうえもなく神的な温順な動物となるが、十分な教育を受けず、美しく育てられなければ、地上で最も凶暴な動物となる」
コメニウス（1592～1670）	「教育されなくては、人間は人間になることができない」
ルソー（1712～1778）	「植物は培養によって成長し、人間は教育によって人間となる」
カント（1724～1804）	「人間は教育されなければならない唯一の被造物である」 「人間は教育によってはじめて人間となることができる」
ナトルプ（1854～1924）	「人間はただ人間的な社会においてのみ人間となる」